

晩夏

長い年月 則ち人の生と
瞬間 則ち純粋な美と

時が瞬間の連続であることを思い
法師の声はひとつひとつの別離と聞く

何故に定着を欲するのかは分からぬが
ただ、その為にのみ生きている自分を見出す

夏のうえに秋がある
流れるもの 、飛びすぎるもの

人生については何も知らない
ただ、世界の奥底に横たわるものを感じる

(1983.9.6)